

明日 への 話題

民主主義は どこへ 向かうのか



みずほりサーチ&テクノロジーズ
理事長

なか お たけひこ
中尾 武彦

ロシアによるウクライナへの侵攻、中国でのリーダーの任期制限の撤廃とコロナ対応の混乱など、昨年は権力が集中している国の問題がより明らかになった。同時に、多くの国で自由選挙に基づく民主主義から、より権威主義的な体制に逆戻りする傾向が見られる。クーデターで軍部が権力を掌握したミャンマーなどは、悲劇的な例だ。

もちろん、選挙に基づく民主主義は万全ではない。多くの少数民族や宗教的な対立を抱えるような国では、民主主義は多数派による少数派の抑圧に転化しかねない。幅広い中間層に支えられなければ、民主主義は不安定なものになってしまう。今は民主主義と言われている国々も、発展の最初から国民すべてによる選挙に基づく民主主義だったわけではない。

それでも民主主義に勝る制度はない。長期的にはどの国も民主主義に向かっていくべきだ。権力の集中の下では、リーダーにはよいニュースしか伝えられず、当局と違う意見は社会を混乱させるとして排除され、さらには当局による事実の歪曲、創作までが行われるようになる。日本の歴史を見ても、それは取り返しのつかない大きな誤りを招くおそれがある。

もっとも、民主主義体制のほうも大きな課題を抱えている。米国では、社会の分断を背景に、民主党と共和党、そしてそれぞれの党のなかにある伝統的な勢力と急進的な勢力の間の対立はより深刻になっており、必要な政策を推進することも困難だ。欧州では、移民の増加や経済的な格差の拡大が右派の伸長を招いており、経済政策の混乱も見られる。世界的に、SNSの発達もあって、誤情報、偽情報、そしてポピュリズムが民主主義の脅威になっている。

日本では、企業も個人も政府が支えればよい、国の歳出拡大は国債の増発で賄えばよいという、財政ポピュリズムとでも言うべきものが見られるのではないか。政治家、官僚、メディア、学者などの権威が下がり、経済的にももっと報われる仕事があることから、権力の牽制ばかりを言っているうちに、統治を担い、支える側の弱体化が進んでいるようにも思う。数が多い高齢者の影響力が強まり、若者や将来世代の利益が十分に反映されないという問題もある。

簡単な答えはない。まずは、教科書で書かれているような理想的な民主主義の姿は既になく、きちんと機能し、公平で、穏健な民主主義を導くにはどうすればいいのか、それが我々に問われていることを認識することから始めなければならない。